

もりや里山新聞

‘22/6/18

【土曜日】

発行

守谷里山ネットウ



変身した稲わら妖怪



稲わら妖怪「アマビエ」再登場(二代目)

令和三年一〇月頃、新型コロナウイルスがなぜか急激に終息してきたので、稲わら妖怪アマビエは役割が終わったとして解体して、新しい稲わらで収穫を祝う季節的な「ハロウィン像」を製作しました。

これは課外授業などでサツマイモ堀にやってきました子供達にも喜んでもらいました、
ところが、十二月になって突然新型コロナウイルス株が蔓延してきました。そこで、急遽ハロウィンをアマビエに変身させることにしました。
問題は今年の稲わらは使ってしまった材料がなくなってしまった

この度は活用することになりました。
マコモ藁は長くて野生的なために迫力のある妖怪が出来上がり、会員一同満足な出来上がりとなりました。
通行者が遠方からも見える角度を

ことです。
幸い十月下旬にマコモの収穫が終わり、大量のマコモ藁が出てきたので活用することになりました。

考え、二面観音にして「コロナに負けるな！」のメッセージも付けました。
地域の新聞にも掲載され、結構な話題となり、わざわざ身に来たり写真を撮りに来る人もいました。中にはどこにあるのですかとの問い合わせもありました。
里山の会としても、イベント会場の案内をする際に、アマビエのあるところというのと、解ってくれて便利でもありました。

目次

1. 稲わら妖怪「アマビエ」再登場
2. 炭焼きの再開
3. 田んぼの準備・山菜採り
4. マコモ移植栽培
5. 田んぼの学校の田植え

ボランティア募集
あなたも一箱に楽しみましょう!

守谷里山ネットワーク

〒302-0119

守谷市御所ヶ丘 5-25-1 守谷市民活動支援センター

☎ 0297-46-3370

メール denen21@ktb.biglobe.ne.jp

ホームページ 「野に集い野に遊ぶ」

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~noasobi/>



守谷市では、多くのボランティア団体が各地で、手作りによる里山づくりを行っています。何か地域で活動してみたい/自然と関わりのある活動してみたい/子供たちの遊び場を作ってみたい/みんなで楽しく汗をかいてみたいそんな思いをお持ちの方は、ぜひこの機会にご一緒に活動してみませんか。

二. 炭焼きの再開

昨年度の炭焼きはコロナ禍で炭窯のある自然博物館の出入りも制限されたことから中止としました。今年竹林整備という役割も考慮して、十一月から伐採作業に取り掛かりました。

一月、二月と定例作業で例年通り伐採、乾燥、小割、節取り、結束と進み、三月十九日(土)から自然博物館に搬入して炭焼きを実施するスケジュールでした。

ところが、博物館は水槽ホルマリン事故でしばらく休館となり、開館後もコロナ等の影響で日程が決まらず当面延期することになりました。

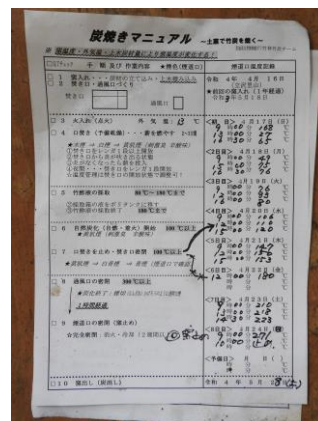
四月に入ってようやく動きが



炭焼きの火入れ



了し、余熱の火入れを行うことができました。今までは博物館の休館日(月曜)を挟まないように火曜日の本火入れが多かったのですが、今回は翌日



あり、ひと月遅れの四月十六日(土)から実施できることとなりました。

ちようど、田植えの準備作業に入る時期ですが、田植え時期も不確定要素があることから、早めに進めることで決定しました。当日の作業は軽トラク二台を手配できたので迅速に進めることができ、同日午後には窯詰めを終

薬師台の階段工整備



十七日(日)の九時から本火入れを行いました。火入れには子供の体験参加もありました。

昨年春に薬師台斜面林伐採の材料を確保し、一年間乾燥して置いた

木材があり、階段工の整備とともに加熱用の薪材として有効に使えました。

今回は炭焼きがひと月遅れに一年間十分に乾燥させた竹材が多いので、立ち上がりは速いのはと予測していました。ところが例年だと火入れして翌日の夕方頃から煙の温度も上がり、竹酢液の回収が始まるのですが、なかなか上がりません。結局三日目になってようやく八〇度を超えました。昨年の五月から炭窯を使っておらず排水や地下水で窯の底が湿気っていたことが要因のようです。最終的には竹酢液は例年通り六缶回収でき、七日目の二四日(日)

の一〇時に完全閉塞し火止めを行いました。

窯出しは田植えの後の五月二八日に行いました。やや焼き過ぎで仕上がり量はかなり少なくなりましたが、残った炭の品質は上々でした。

黒竹の開花

炭焼きの途中で黒竹の花が咲き出したという情報が入り、さっそくカメラを持って見に行きました。花とは思えないほどに地味な状態ですが、一二〇年に一度の開花と思うと幻想的でもあります。いつもは満開の桜を見ながらの炭焼きでしたが、今年は一ヶ月遅れで八重桜が咲いている程度でした。

窯の正面にあつた大島桜は伐採されていた。炭焼き留守番の合間に博物館の企画展を見学しました。



120年ぶりの竹の開花

三. 田植えの準備・山

菜採り

今年も徐々に春らしい陽気となつてきました。四月二三日(土)の定例作業で、草刈りやシロカキ、畔塗など田植えの準備作業を行いました。

例年、先生等学校関係からも手伝いに来てもらっています。今年も九時前から自転車や徒歩で多くの子供たちがやってきて驚



シロカキ作業



きました。先頭でやってきた

子供に聞いてみると、田植え準備の手伝いをやりたいとのこと。御所ヶ丘小学校からは三〇名以上の参加がありました。

校長先生の話で

は、コロナ禍で自宅などに籠ることの多い子供たちが是非参加したいと言ってきた、とのことでした。ところで、何をやってもらうか考えました。シロカキや畔塗など力仕事は難しいので、とりあえず、袋を用意してゴミ拾いをお願いしました。人数が多いので三〇分もしない



耕運機の湿地用フート

で終わってしまいい、適当に田んぼの中に入って遊んでも構わないと言いました。昨年の切株の上を歩くと足が埋まらないよとアドバイスしたところ、皆が元気

に田んぼに飛び込んで遊びました。

今年は、耕運機を改良中で水位を高めにして軽く耕耘してありますが雑草が効果的に除去できませんでした。ところが、大勢の子供の足で歩いてもらうと、かなりきれいになり、結果的に

人力シロカキになって大いに助かりました。

「稲わら妖怪アマビエ」も笑顔で見守りました。

山菜採り

シロカキに参加してもらった子供達には、せっかくの機会なので、作業後に近くのワラビ畑で山菜採り体験してもらいました。

ほとんどの子供は初体験のように、良い経験になったと思います。

また炭焼きで間伐した竹林のタケノコも時期だったので、タケノコ掘りをしました。

今年も五月五日の子供の日に「子供会」の山菜採り自然体験を予定していましたが、残念ながら陽性者が出たということで急遽中止しました。

ワラビは採取時期が四月

で、シロカキ後に子供達で収穫した後に一旦刈り取ってみまし

た。しばらくすると新芽が出てきて五月連休に再収穫できるのではとの試験的な取り組みです。

結果は良好で立派なワラビが出てきました。季節的にタケノコ、フキ、セリ、クレソンやミョウガ竹なども併せて時期を調整できればイベントには有効と判断しました。

取水堰の改修、ポンプ補修など用水も大丈夫、二八日には苗も搬入しました。今年はいつものコシヒカリではなく早生福丸で、稲刈りも早くなりそうです。



ワラビ採り

四. マコモの移植栽培

五月六日(金)にマコモの移植作業を行いました。昨年は耕作放棄地を開田し、守谷市内だけでなく潮来、我孫子などからも苗を手に入れて初めての栽培を行いました。不安はありましたが、思った以上の収穫で安堵しました。

そこで今年にはマコモの面積を増やして右岸側の田んぼにも植えつけました。

秋の収穫に向けて、追肥、草取



マコモの移植



御所ヶ丘小



大井沢小



松前台小

少なく稲の生育状況も良さそうで、秋の収穫が楽しみです。

六月十八日(土)には子供達有志も参加して田んぼの草取りをしました。

五月二十八日(土)に炭焼き窯出しが完了し、稲やマコモの田植えも終了したことから、二十九日(日)に春の作業の打ち上げ慰労と豊作祈願で賑やかにバーベキューを行いました。

り、収穫後の扱いなど、いろいろと議論をしているところです。

五. 田んぼの学校の田植え

北守谷地区の3小学校で行う稲作体験「田んぼの学校」の田植えについて、今年には茨城県のコロナ対策がステージ1となるなど、かなり落ち着いてきたことから、3密対策などに配慮しながら3校ごとの分散開催としました。

いずれも午前九時からですが、五月十日(火)大井沢小学校、十

一日(水)御所ヶ丘小学校、十二日(木)松前台小学校としました。

三日連続だと会員の日程調整も大変、天気が大丈夫かと心配になってきますが、無事持つてくれました。

足場の悪い田んぼで、最初はほとんどが歩けない状況でしたが徐々に慣れてきて無事終了しました。今年には皆が丁寧に植えてくれたのか、浮稲も



田んぼの草取り

【編集後記】

守谷市内で里山活動に取り組んでいる皆さんからの情報提供が何よりも重要です。本紙への活動報告、行事の予告など記事をお寄せください。

こちらまで

メール⇒ denen21@ktb.biglobe.ne.jp